

# ~Mirary soa~

マダガスカル通信  
第4号  
2022年11月16日

## ◎プロフィール

名前：光成 沙也加 (MITSUNARI Sayaka)  
隊次：2021年度4次隊 (2022/4~2024/4)  
職種：看護師  
派遣国：マダガスカル  
任地：アンチラベ (首都から南に車で4時間)



## ◎マダガスカルに雨季到来！

マダガスカルの雨季は11月~3月まで続きます。10月までのカラッとした空気から一転、**ほぼ毎日夕方~夜中にかけてスコールのような大雨**が降るようになりました。

しかし**日中は天気が良い**ため、活動自体に支障が出る事があまりなく、その点はありがたいです。ただ、前日の大雨で赤土の地面がぬかるむため、活動地の村まで自転車を漕いで行くのには苦勞します。地面が乾いてもたくさんのわだちが残り、アトラクションのような道を進みます。笑

また雨期は、村の農家の人たちが**田畑を耕し農作物を植える時期**となり、農家の人たちは繁忙期です。乾季とはまた違った赤土の色や緑の多い田園風景を見ることができます。



ぬかるみの中、通学中の子供達

## ◎ここ最近のこと

早いことでマダガスカルに来て7か月目、任地に来て5ヶ月になりました。この5か月間はやりかた活動を一気にやり、ここ最近足踏み状態が続いていました。今後の活動について悩むことが多く停滞期に陥っていましたが、そんな時の気分転換になったのは**任地の散策**でした！任地はトレイルランニングの大会コースになっている山や丘があり、眺めの良い場所がたくさんあります。

そして景色を眺めながら歩いていると、出会ったマダガスカルの人たちが挨拶や声をかけてくれ、何気ない会話が始まります。**のどかな田園風景や人々の温かさ**に触れ、地元の田舎を思い出します。

マダガスカルの自然や人々に癒やされながら、自分のできる活動を地道にやっていたらこう思った今日この頃でした。(せっかくの環境なので、趣味のトレイルランニングも少しずつ再開していきたいと思います、、！)



のどかな風景に癒やされます



田植えが始まり  
田畑が色付き始めました

## ◎活動先の拠点・保健センターについて

私の活動は現在、各地域にいる保健ボランティアさんと子どもの身体測定をしたりお母さんへの栄養指導をしたり、学校へ行って子ども達に手洗い指導をしたりしています。その活動拠点となっているのは、**各地域を管轄している保健センター**です。今回はその保健センターをご紹介します！

拠点の保健センター(CSB II アンバラバトゥ基礎保健センター)は、実はJICAの無償資金協力で2019年に施設の半棟が建設されました。施設が拡大し、毎日多くの人を訪れます。

そして、保健センターには医師がいて、診察や薬の処方をしてくれます。日本と違いマダガスカルでは、**病気になるとまず行くのは病院ではなく、保健センター**なのです！

その他に、歯の治療や子どもの予防接種、妊婦健診、出産、家族計画を**無料**で行っています(薬代のみかかりますが、病院よりも安いです)。



CSB II アンバラバトゥ基礎保健センター



病気の子どもの身体測定をする部屋



妊婦健診中



出産の部屋(処置台)



家族計画の部屋



保健ボランティアさんへの勉強会もしています



医師の診察中



日本にあるような機械もあります



多くの子ども達も予防接種に来ます



診察後はここで薬をもらいます

## ～保健センターどんなことやってる？～

ここで保健センター内の様子を見てみましょう！CSB II アンバラバトゥ基礎保健センターでは、平日8時～16時まで診療しており、出産の部屋のみ24時間体制になっています。常時清掃員さんがいて、施設内はとてもきれいです。

病気で訪れた時は、まず看護師のいる部屋で**身長・体重測定と血圧測定**などを行います。その後医師の部屋で**診察**をして**薬局**で薬をもらいます。

歯医者さんでは早期の虫歯であれば詰め物をすることもできますが、虫歯が悪化するとすぐに**歯を抜かれて**しまいます。それは**治療費が高くなる**からだそうですが、マダガスカルの人達は歯がない人が多くて驚きます！

そして私が保健センターに来て一番驚いたのが、“**家族計画**”の部屋があることです。無計画な妊娠・出産による貧困やお母さんや子供の死亡数を減らす目的があるようです。ここでは**避妊の注射やインプラントの挿入、ピルの処方**などを受けるためにやって来る女性が多く、男性の訪問は消極的なのが現実です。